

第28回 沖縄科学技術大学院大学学園の今後の諸課題に関する検討会 議事録

1. 日時：令和3年3月8日（月）15:00～17:00
2. 場所：Skype 会議／中央合同庁舎8号館14階内閣府沖縄振興局長室
3. 出席者
 - (1) 構成員
相澤座長、西澤委員、岡崎委員、長我部委員、小柴委員、瀧澤委員、宮浦委員、山本委員
 - (2) 内閣府
原沖縄振興局長、水野審議官、中田総務課長、杉田次長
 - (3) OIST
グルース学長、吉尾 COO ほか

○相澤座長 それでは、定刻になりましたが、皆様、よろしいでしょうか。これから第28回「沖縄科学技術大学院大学学園の今後の諸課題に関する検討会」を開催させていただきます。

お忙しい中、御出席いただきまして、誠にありがとうございます。

本日は、新型コロナウイルスの感染拡大状況を踏まえまして、スカイプによるウェブ会議とさせていただきます。委員の参加は7名ということになっております。

なお、大島委員、小柴委員は遅れて参加されるとの連絡を頂いております。

オブザーバーとして、グルース学長をはじめとするOISTの皆様が陪席されております。

内閣府沖縄振興局からは、原局長、水野大臣官房審議官・沖縄科学技術大学院大学企画推進室長、杉田次長が参加しております。

それでは、議事に入る前に、本日の議題及び資料、ウェブ会議の注意事項について、事務局より説明をお願いいたします。

○杉田次長 OIST室の杉田でございます。

それでは、私から本日の議事について御説明いたします。

本日の議事は「1. 2021年度政府予算案について」「2. 2021年度事業計画案等について」「3. OISTの10年後見直し」の「ヒアリングにおける主な意見等について」「『最終取りまとめ』に向けた進め方について」「4. その他」です。

本日はスカイプによるウェブ会議となりますので、皆様に特に御注意いただきたい事項を御説明いたします。

まず、同時通訳により実施しております。

ハウリングを防ぐため、発言される際を除き、マイクはミュートにしてください。

発言される際には、冒頭、必ずお名前をお知らせください。

会議中に接続トラブル等がございましたら、お手数ですが、事務局にお電話にてお知らせくださるようお願いいたします。電話番号は03-6257-1663になります。

資料としましては、

資料1 沖縄科学技術大学院大学学園の今後の諸課題に関する検討会委員一覧

資料2 2021年度政府予算案

(議題2資料省略)

資料4-1 ヒアリングにおける主な意見等

資料4-2 ヒアリング要旨

資料5 最終まとめに向けた進め方(案)

参考資料 中間取りまとめ

を配付しております。

私からは以上です。

○相澤座長 最初の議題に入ります。「2021年度政府予算案について」です。

事務局より資料の説明をお願いいたします。

○杉田次長 OIST室の杉田です。

資料2「令和3年度政府予算案等について」を御覧ください。

まず、2ページ目を御覧ください。沖縄振興予算全体の資料となっております。

令和3年度沖縄振興予算は、総額で3010億円でございます。その中で、赤枠で囲っておりますのがOIST関係の当初予算案となっております、190億円となっております。

続いて、3ページ目を御覧ください。沖縄振興予算に占めるOIST予算の割合を示した資料になります。

沖縄振興予算全体が伸びない中ではありますが、OIST予算は一定の割合を占めておりまして、令和3年度予算案では6.3%となっております。

続いて、4ページ目、英語の5ページ目を御覧ください。

OISTの令和3年度予算案は190億円、令和2年度第3次補正予算案30億円を含め、総額は220億円となっております。これは対前年度比で9.5億円の増額であり、過去最大級の予算案となっております。

令和3年度予算案の主な内訳ですけれども、まず、運営費が168.7億円となっております。この中には、PIを82名から88名へ増員するために必要な経費や研究費について164.1億円、また、POCプログラムや最先端共通研究設備整備に必要な経費としまして4.6億円となっております。

また、次の内訳として、施設整備費が21.3億円となっております。この中には、令和4年度の完成を目指す第5研究棟の建設工事費13.9億円、第5研究棟の附帯設備整備費5.3億円が含まれてございます。

6ページ目、英語の7ページ目を御覧ください。

令和2年度のOIST関係補正予算30億円の内訳についてです。最先端共通研究機器整備費6.5億円、第5研究棟の施設整備費23.5億円を計上しております、合わせて30億円となっております。

8ページ目は、OISTの当初予算と補正予算を合わせたものを経年のグラフで示したものでございます。

以上です。

○相澤座長 ただいまの説明に対して御質問等はございますでしょうか。よろしいでしょうか。

特段の意見もございませんので、本件は以上とさせていただきます。

次に移ります。議題2の「2021年度事業計画案について」であります。

この議題ですが、本議題については、承認・確定前のOIST事業計画を用いて審議することとなっておりますので、情報の管理に慎重を期さなければなりません。そこで、この議題についてのみ非公開とさせていただきますと思います。

大変恐縮ですけれども、報道関係者及び陪席者は一時退席をお願いいたします。

(議題2省略)

○相澤座長 いろいろとシステム上のトラブルがございまして、大変長らくお待たせいたしました。

それでは、議題3「OISTの10年後見直し」であります。

初めに、前回まで行いましたヒアリングの振り返りをさせていただきます。

ヒアリングにおける主な意見等について、事務局より説明をお願いいたします。

○杉田次長 OIST室の杉田でございます。

お手元の資料4-1を御覧ください。

ヒアリングにつきましては、昨年9月に検討会で整理しました「沖縄科学技術大学院大学学園法附則第14条に基づく検討に向けたOISTの取組等に関するヒアリングの目的・視点等について」に基づきまして、昨年9月から12月にかけて高等教育機関、沖縄の経済団体、自治体を対象に実施いたしました。

委員の皆様におかれましては、お忙しいところを御参加いただきまして、誠にありがとうございました。

ヒアリングの結果につきましては、事務局で整理し、発言者の確認を得た上で、既に内閣府のウェブサイトにおいて公表してございます。その内容は資料4-2になってございます。

今回のヒアリングでは、中間取りまとめの項目立てのうち、「組織運営」「教育研究」「沖縄振興及び自立的発展への貢献」を中心に、また「今後の総括的議論に向けた留意点」についても広く御意見を伺いました。

既に委員の先生方には御確認いただいた内容ではありますが、時間も経過しておりますので、資料4-1に沿って意見を御紹介します。

まず「I. ヒアリングにおける主な意見」ですが、この四角囲みのところは9月に整理した【ヒアリングの視点】でして、それに対してどのような意見があったかということでまとめてございます。

まず「1. 組織運営」についてですけれども、学園の意思決定を行う理事について、科学者、沖縄振興、大学経営に関する識者等、OISTの設立の趣旨を踏まえてバランスよく構成されており、世界の学术界の潮流を押さえつつ、運営面で非常によく機能しているという声がございました。

一方で、評議員の方からですけれども、現状の業務以外にも、OISTの将来像について、執行部と深い議論のできる場があることが望ましいという意見もございました。

続きまして「2. 教育研究」のうち「(1) 教育」についてですけれども、まず、優秀で意欲の高い学生が獲得できているという意見がありました。

一方で、日本人の合格者数の入学割合が低いということが挙げられておりまして、その理由を分析してはどうかといった意見もございました。

また、学生や教員からは、OISTでは学生と教員の距離が非常に近く、研究内容などについて相談・指導がしやすいこと、学生や若手研究者の考えを取り入れる環境が整っていること、学生に対して手厚い支援が行われていることがよいとの意見がありました。

一方で、規模がまだ小さいということで、授業科目や研究室の選択の難しさがあるといった意見もございました。

続きまして、2ページ目「(2) 研究」についてです。

まず、学術研究の国際競争力の低下が指摘される日本において、OISTは10年間で優秀な人材を集め、論文にコストをかけることで研究成果が出るということを示した点が重要であるという意見がありました。

そのほか、PIのレベルの高さ、PIや若手研究員への研究費をはじめとするサポートの手厚さ、それから、PIが国際性に富んでいて、世界の科学コミュニティーとの緊密なネットワークを構築できていることを高く評価する意見もございました。

一方で、研究の面で特に学術連携のところですが、日本に所在する大学であることを考えると、国内のアカデミア、特に若手の研究者と世界の科学技術コミュニティーとのネットワーク形成に資するような取組や、海外出身のPIと国内のアカデミアとのコミュニケーションが増加するような取組を促進していくことを期待したいという意見がございました。

また、OISTがカバーできていない研究分野については、国内の他の研究大学と連携していくことも必要であるという意見もありました。

続きまして、3ページ目「3. 沖縄の振興及び自立的発展への貢献」の「(1) 教育研究」についての主な意見ですけれども、マリンサイエンスやサンゴなどの沖縄の特性や資源を活用した研究に取り組んでおり、成果を上げているという意見がありました。

一方で、世界トップレベルの基礎研究と地域の産業に根差した研究とでは方向性が違っており、世界最高水準の研究も重要ではあるが、沖縄振興も目指すのであれば、地元の課

題解決に結びつく研究も期待したいという意見もございました。

続きまして、3ページの下の方ですが、「(2)産学連携」についてです。産業界や自治体は、OISTに対応できるアクセス窓口が開設されることや、共同研究に関する働きかけの仕組みが構築されることを期待しているという意見がございました。

また、OISTは研究成果をあげていると思うけれども、ベンチャー企業の創設、関連企業の誘致などにつながっているかどうかという点では、まだ見えづらいところがあるといった声も聞かれました。

一方で、世界最高水準の研究を行う大学がある地域で、その研究成果を活用できる企業があるとは限らないけれども、研究に直接的につながらない場合であっても、研究者の経験や知見を活用して、地元の企業のニーズに何らかの形で応える活動を行うことは可能ではないかという意見もありました。

また、4ページの一番下のところの沖縄振興の地域交流の観点で、子供たちの学力向上が沖縄の重要な課題である中、OISTの子供たちへの科学教育プログラムの提供については、非常に有意義で、今後もそうしたプログラムの提供を期待したいという声がありました。

OISTと沖縄との関係を見ますと、全体としては十分に密接とは言えない。今後、様々な観点から関係を深めていくことや、研究成果の周知など、広報活動の充実が期待されるという声もございました。

県内の高等教育機関からは、人材育成、研究面でOISTとの連携強化を希望したいといった意見がございました。

続いて、中間取りまとめにおいて、最終取りまとめに向けて行う総括的議論に対し留意することとされた4点の事項についても、主な意見を伺いました。

5ページの【留意点1】のこれまでのOISTの成果・取組を国際的なベンチマークでどのように検証・評価するかという点につきましては、世界最高水準とは何かという評価基準を定める必要がある。費用対効果、論文の生産性という観点も必要ではないかという意見がございました。

また、海外出身の学生も含めて、OISTの出身者が日本のアカデミア、産業界も含め、どこでどういう活動をしているかという視点も必要ではないかという意見もありました。

続いて【留意点2】。中長期的な観点から、計画的にOISTの規模や在り方を政府も含めて検討する枠組みが必要ではないか。その際、日本の科学技術政策の中でOISTをどう位置づけていくべきかという留意点に対しては、規模を拡大する際、国の予算が中心であるならば、日本に対する貢献を組み込む必要があるのではないか。世界トップを目指すということで、さらに大きな予算を投入するのは難しいのではないかといった意見がありました。

また、OISTは世界の科学技術の発展に寄与することも目的の一つとしていることから、科学技術の発展に沿う部分では、沖縄振興予算とは別の科目で計上することを検討できないかとの意見もございました。

続いて【留意点3】。OISTが将来目指すべき規模を考える上でのクリティカル・マスの

考え方やその根拠を明確にすべきではないか。また、今後、中長期的な規模拡充を検討するのであれば、国からの予算措置に上限がある中で、研究の質を確保しつつ運営できる規模がどこにあるのか、何を優先して行うべきなのか、現実的な検討が必要ではないかという留意点については、研究ユニット間の有機的な連携を図るという意味では、PI80人ぐらいが適切ではないかという意見がございました。

規模の拡大という点では、教員1人当たり、学生1人当たりのコストの観点も意識する必要があるのではないかという意見もございました。

一方で、OISTが目指す姿として挙げているCaltechなどと比べると、やはり自立的に発展する力が現在は足りないので、しっかりとやっていく必要があるのではないかという意見もございました。

また、大学の規模と分野にはバランスが必要で、OISTの規模が大きくなっても、研究の幅がなければ、学生などを引きつけることはできず、共同研究も生まれないので、そういった観点も必要ではないか。

財政面では、持続可能性を考えると、外部資金など、公的資金のみに依存しない経営体質も必要ではないかという声も聞かれました。

そして、7ページ目の【留意点4】。沖縄に所在するOISTが国際的頭脳循環の拠点になることが、沖縄のみならず日本全体にとっても重要であり、その具体的な方策を検討し、実行すべきではないかという点につきましては、OISTが国際的な頭脳循環の拠点になるには、PIや学生など、沖縄を理解し、愛着を持つことが重要ではないか。そして、OISTから巣立った人材が沖縄や世界各地で活躍し、新しい分野を開拓しているかということも重要な視点になるのではないかという意見がありました。

また、OISTで多くを占める研究員の方たちが転出後にどのような活動をするのかということも評価が必要ではないかという意見がございました。

続いて7ページのⅡ. ですが、ヒアリングで様々な意見が寄せられたわけですが、これらを通じて中間取りまとめにおける評価がサポートされたと同時に、沖縄振興への貢献、外部資金の獲得を含む自立的財政基盤の確立、日本の学术界・世界の学术界との架け橋の強化の3点が、今後一層期待される取組として浮き彫りになったのではないかと考えております。

最終取りまとめの検討の中では、これら3つの点も含め、今後の課題についても議論することになるかと考えております。

以上でございます。

○相澤座長 ただいま事務局より説明いただきましたが、大変な御負担を委員の皆様におかけいたしました。こういう全体像が浮き上がってまいりました。

ただいまの説明に対して御質問、御意見等がございましたら、お願いいたします。委員の方から御発言はありませんでしょうか。

特段ございませんようですので、ヒアリングにおける主な意見等ということで、このま

とめを皆様から御了承いただいたという形にさせていただきます。

それでは、これから3番目の議題の中の2つ目に移りますけれども、その中で、ただいまのヒアリングの留意点等を最終取りまとめに取り込んでいくということも含んでいるということで御理解いただきたいと思います。

それでは、2つ目の議事は「『最終取りまとめ』に向けた進め方について」であります。

それでは、この件につきまして、まず事務局より説明をお願いいたします。

○杉田次長 OIST室の杉田です。

資料5の「『最終取りまとめ』に向けた進め方について（案）」を御覧ください。

まず「1. 『最終取りまとめ』に向けた検討の方針等」ということで、最初の○のところでは、最終取りまとめに向けては、中間取りまとめで整理されたOISTの取組や実績について、確認・評価したものに基づいて総括的な評価を行い、さらにヒアリングを通じて、明確となった一層の成果が期待される取組なども含めて、今後の課題を整理するとしてございます。

2つ目の○ですけれども、その上で、規模の拡充や財政支援の在り方等といった10年後の見直しの重要な検討課題について議論を行い、結論及び提言を取りまとめることとしてはどうかとしてございます。

進め方の案を踏まえまして、3つ目の○に最終取りまとめの構成案を示してございます。

I. からIII. は、既に中間取りまとめで整理されてはいるものですが、特にIII. については、中間取りまとめ以降のOISTの取組の進捗や、ヒアリングで確認された事項も踏まえて、補強・アップデートしていくことを考えてございます。

その上で、IV. では、この10年間の取組の実績について、総括評価と今後の課題の整理を行い、V. で、OISTの規模拡充や財政支援の在り方について検討をまとめ、最終章で結論・提言をまとめる構成案としております。

最後に、参考資料として、エビデンスとなるデータやヒアリングの概要なども付することとしてございます。

続いて「2. 今後の議論における留意点」ということで、特に先ほどの構成案のIVからVIの議論を進めていくに当たって留意が必要と考える点を挙げたものです。

5つの四角囲みがありますが、そのうち（A）から（D）の4つは、中間取りまとめの最後に今後の総括的議論に向けた留意点として記載されたものです。

それぞれにつきまして、明朝体で少し細かい点を挙げさせていただいております。

例えば、（A）の国際的なベンチマークでどのように検証・評価するかについては、世界最高水準という評価基準についての具体的な指標があるのか。また、OISTの成果を客観的かつ定量的に他大学と比較し、位置づけを把握できる国際的な指標は何かといった観点から検討してはどうか。

（B）については、具体的には、OISTが成長する適切な規模をどのように考えるか、国からの予算に上限がある中で何を優先して行うべきなのかということがあろうかと思いま

す。

(C)については、国からの財政支援の在り方について、どのように考えるか。現在、沖縄振興予算が中心になっていますが、こうした点からもどう考えるか。または、外部資金の獲得の強化が必要ということで、獲得目標を継続的に達成することが必要ではないかといった点を書いております。

(D)については、国際的頭脳循環の拠点になるための具体的な方策は何か、OISTに教員や学生として在籍した人材が、その後、どのように活動しているかを把握することが必要ではないかといった留意点をあげております。

さらに、(E)としてOISTに係る制度の見直しを行う必要があるかという点も議論の留意点のとして挙げております。

最後に「3. 今後のスケジュール」ですが、4月から6月で3回ほど、主に構成案でいうところのⅢ. からⅥ. までの議論を行い、6月頃に最終取りまとめを取りまとめるという案となっております。

説明は以上です。

○相澤座長 それでは、これから意見交換に入りますけれども、資料5に「1. 『最終取りまとめ』に向けた検討の方針等」というところがございます。本日の議論は、この内容についてであります。

丸印の3つ目に最終取りまとめの構成というところがありますが、こういう構成でよろしいかどうかということがまず第1です。

I、II、IIIまでは基本的には中間取りまとめに入っております。このI、II、IIIについては、中間取りまとめの後のアップデート版といいたいでしょうか、そのようなものが記載されます。

IV、V、VIがまだ中間取りまとめにはないところであります。「IV. 総括評価及び今後の課題」のまとめがなかなか大変なことになるかと思えます。「V. 規模拡充、財政支援の在り方等」もなかなか難しいことが入ってまいりますので、このまとめ方も大変難しいということになります。最終的には「VI. 結論及び提言」ということになってまいります。

しかも、最後のところで説明がありましたように、スケジュールが大変きついものになっておりまして、実質的な内容を3回の検討会でまとめていくということになっておりますので、本日、この全体構成について十分に意見を伺った上で、次はそれぞれのところを各論的に攻めていかなければいけないという状況であります。

そのようなことを基本的な認識としていただきまして、これから意見を頂きたいと思えます。どなたからでも結構でございますから、御発言いただきたいと思えます。

小柴委員、どうぞ。

○小柴委員 本当に私はまだ入ったばかりで、いろいろ分からないところがあるのですが、分からないのを承知で、すみません、変なことを言ったら許してください。

まず、提言をするに際して、我々委員は何ができるのかというところですね。提言をま

とめるということではできるのですけれども、例えば、予算というのは、もう完全に政府が決めていることで、委員に何かできる余地があるのか。

あと、テーマをやるとかという、私も、あれだけPIが80人台ということになると、そこそこのミッションをもう一回見直さなければいけないのだけれども、最終的にテーマを決める、ミッションを決める。この大学においては、これはどの機関がどういう形で決めていくのかというところを教えていただきたいのです。

というのは、どうしてかという、先ほどのまとめのところは、非常によくできた形でまとまっていると思うのですが、あれを全部了承という意味がちょっとよく分からなかったのですが、あの書かれている内容は正しいと思うのですけれども、では、あれを全部やるかという、これは全く無理だと思うのですよね。

その中でいうと、本当にあのヒアリングを通じてそこそこの印象を持ったので、では、あれを全部やるのではなくて、こことここがキーポイントだなというのを言ったとして、それがどのように最終的な形で皆さんの研究を助けることができるのかというところが、我々委員の持つパワーというか、そこがよく分からないので、どこまで踏み込んでお話をしているのかなということ先ほどから聞いていて思ったのですけれども、そこを教えていただけないでしょうか。

○相澤座長 まず、この検討会のタスクですが、これはこれまでのOISTの全体像をつかんで、10年でどういうところに達しているのかということの評価するということになります。

そのときに、研究・教育については、OISTが第三者評価を設置しておりまして、もう既にその評価結果が出ているわけですけれども、それを基本的には尊重する。そして、その評価の在り方、それから、さらに違った視点から加えるべきこと、そのようなことはこの検討会がやるべきことになります。

ですから、個々のPIの研究の在り方云々は、この検討会が主として行うことにはなっておりません。

それから、予算のmatterはやはり内閣及び政府の課題になりますので、そこに直接的なことをコメントするというよりは、OISTがここまでに達成したことについて、しかるべき評価の観点から、その位置づけが世界に冠たるものという本来のミッションステートメントで出てくることに対応させて、どう判断させるか、あるいはどうこれを強く推し進めるべきなのか等々、そここのところが提言でありまして、予算そのものについての提言というのはなかなかしにくいところではあります。

○小柴委員 分かりました。

今のお話を聞いて、前回のヒアリングも見て、聞いて思ったのですが、印象を持ったのが、ネイチャーインデックスなどで評価されているように、ある意味で、日本の大学の中では非常に貴重な、10年としては、世界に対しての先端研究をやるということでいうと、そのミッションはそこそこやられていると思いますが、それから、もう一つ、OISTのコミュニティーを世界に作っていくということができているという感じはしました。

本当にこういう仕事を頂いた中で、やはりOISTの活躍がいろいろ気になるようになりまして、そういう意味でいうと、私は、本当にその存在感というのは、80人の規模にしては十分なのかなという気がします。

ただ、やはり足りないなと思ったところが、前回も言ったのですが、日本人の学生が英語という中でやっていくときのサポート体制であったり、卒業した人たちが日本の会社で働けないというか、そこの部分の世界に出ていく、OISTのコミュニティーはできてきたのですけれども、日本との関係が非常に微妙だなと。日本の予算を使っている限りは、そこはやはり強化しなければいけないのではないかなという感じがしました。

80人体制でということになると、評価基準の6項目を全て満たすというのはなかなか難しいので、我々としては、私の感じ、私は企業をやって組織論でずっとやってきましたけれども、本当にある程度のところのミッションを絞ってあげる。それが我々が委員としてできることなのかなという気がしましたが、世界最高の研究を目指してほしいし、これからも5年、10年という形でOISTのコミュニティーを世界に広げてほしい。

ただ、やはり足りないところというのは、日本との循環のサーキュレーションのところをもう少し強くしていくのかなという印象を持ちました。

以上です。

○相澤座長 ありがとうございます。

今、意見を伺ったところで、検討会としては何をするのかということをおは先ほど申し上げました。そこにプラス、ヒアリングしたことをどう反映させるかということをお、今、小柴委員は指摘されたかと思うのですが、先ほど整理しましたように、ヒアリングの中身に逐一对応するというおはいたしません。

ヒアリングは、あくまでもヒアリングの対象者とした方々から個別的に、しかも、公的な立場からの御発言というよりは、学識あるいは有識者という立場から御発言いただいたということおありますので、そういうことから得られてきた御意見というおは、一つの意見として尊重するということおとどめたいと思います。

ただ、主な留意点ということお先ほど整理されたところおは、検討会全体として今後の最終取りまとめに何らかの形で反映すべきことおであろうということおあります。

反映のさせ方としては、先ほど申し上げました最終取りまとめの構成のところおは、もうかなりが第3章に相当し、中間取りまとめに入っていることお。教育・研究とか大学運営とか、そういうところに入っているのですが、ヒアリングで指摘されたことおは、そのようなところおは、もう少しこういうことお加えてという形で入り込んでくることおが可能性としては十分にあります。

あと、規模拡充とか予算のことおにも関わるようなことおというのは、ヒアリングで出てきた意見をそのまま尊重するということおは、いかないうな状況かおと思うのです。それぞれの立場の方々おは、個人の見解として述べられたことおですので、これはこういう御意見があるという位置づけになるかおと思います。

そういう理解でいかがでしょうか。ありがとうございました。

○小柴委員 分かりました。理解しました。

西澤先生、先に行かせていただいて、すみませんでした。

○相澤座長 ありがとうございました。

それでは、ほかの方はいかがでしょうか。

○西澤委員 西澤でございます。

○相澤座長 西澤委員、どうぞ。

○西澤委員 今の小柴委員の御指摘は非常に貴重なところで、我々がもう一回整理する上で重要なポイントかなと思っているのですが、相澤座長が言われたとおり、これまでのヒアリングをずっと聞いて、個別ではなくて、全体のトレンドの中で一体OISTはどのように評価されてきているかということ、いい点、悪い点を我々委員の目から判断をして、いいところはいいと、さらに伸ばしてほしいし、欠けているところは、このように問題提起されているので、ひょっとしたらこういう形の解決の仕方があるのではないかということ、を提案して、OISTが次の10年できちんと成長していくような基盤を少しでも作ることに貢献できればいいかなという感じを持って、対応すればいいのかなと思っているのです。

その上で、今日、資料5で、留意点として(A) (B) (C) (D) (E)というところで、今回、ヒアリングを聞いてみて一番のポイントは、OISTの考えている方向性とか、OISTがよかれと思ってやっていることと、まだそれが十分理解されていないというか、その理解のさせ方というか、その方式が正しいのかも含めて、先ほどのまとめの資料で、ヒアリングを通じて明確となった一層の成果が期待される取組の最初のところに沖縄振興への貢献というものがあつたと思うのです。

ところが、資料5の留意点のほうでは、その辺が(A) (B) (C) (D) (E)のどこに入ってくるのか。どちらかという、抜けているような気がします。

そういう意味で、先ほどのヒアリングのポイントをこの議論にどう生かしていくかというときの留意点としては、まだ足りない部分がある。こういうところをここでもう一回議論をさせていただいてよろしいのかどうか、この辺を含めて御確認をさせていただきたいと思います。

以上です。

すみません。相澤先生、お声が出ていないと思うのですが。

○相澤座長 失礼しました。

ただいまの御指摘の点は、資料5の1.のほうをまず御覧いただきたいと思います。先ほど申しましたように、これから議論していくことはIV、V、VIというところになっていく。

この議論の進め方については、次回、詳しく柱立てをしたいと思います。ですから、このところはヒアリングにおける留意点ということで整理したこともあるし、それよりも、まず、この検討会ですけれども、前からいろいろな検討が進んでおりますので、それを整

理した上で柱立てをいたします。沖縄の振興ということは重要なテーマですから、当然、その中に入ってまいります。

ヒアリングのそのほかの御意見のところは、先ほど言いましたように、個別のことは、既に中間取りまとめでまとめられているⅢ章に反映してまいります。

ですから、この中に3章の「3. 沖縄の振興及び自立的発展への貢献」ということがありまして、もう既に中間取りまとめにそれが入っていますよね。そこのところに、さらにヒアリングを踏まえて、もっとそこを增強すると申しましょるか、そういうことは十分あり得るといことで、沖縄の振興については、これまでも十分に入っているという考え方です。いかがでしょうか。

○西澤委員 そうしますと「2. 今後の議論における留意点」に(A) (B) (C) (D) (E)というのがあるのですが、これは先ほどの報告書の章立てでいきますと、Ⅳ以降のときにこの議論が入ってくるという理解でよろしいのでしょうか。

○相澤座長 ただ、それはあくまでも留意点ですから、章の構成の中にどう位置づけるかというのは、先ほども言いましたように、この次の回までに決めていただきたいと思えます。ここに書いてあるのは、あくまでも中間取りまとめをさらに固めていくための留意点だと。だから、主にⅣ、Ⅴ、Ⅵ章に関わるところと考えていただければと思います。

○西澤委員 分かりました。

そうすると、特にⅢの1～5までのところについて、なるべく早めに中身が出てくるというのが、ある意味、一つのポイントになると考えてよろしいのでしょうか。

○相澤座長 そうです。ですから、そこが次回以降の中心課題です。

○西澤委員 そうですね。最大のポイントになると。分かりました。ありがとうございます。

○長我部委員 発言してもよろしいでしょうか。

○相澤座長 どなたでしょうか。

○長我部委員 長我部でございます。

○相澤座長 長我部委員、どうぞ。

○長我部委員 構成に関しては、ⅠからⅥまで、それほど違和感がないのですけれども、「Ⅴ. 規模拡充、財政支援の在り方等」に関しては、先ほど来からお話があるように、予算そのものに対するコメントをする委員会ではないという位置づけであることを踏まえて、主として財政支援の在り方等を検討する上で必要な視座・視点が何であるか、これをしっかり書き込むということであると理解しました。しかし、規模拡充そのもの、あるいは財政支援の在り方そのものに、どこまで突っ込んで言い、どこまで視座の提供に終わるのか、Ⅴ. の踏み込み具合があまりよく得心できなかったのも、御質問させていただけますか。

○相澤座長 先ほど申しましたように、大変難しい話になります。それは今後の進め方の中に入ってまいりますけれども、OISTには既に将来構想というものがございますので、こういうものはまだこの検討会では取り上げておりません。機会として、OISTに将来構想を

説明していただく場が必要であろうと考えております。その計画に対して、客観的な立場からどう議論するかというところが、この検討会での課題になると思います。

ただし、検討会としては、予算の規模に議論を進めるところは相当慎重でなければならないわけですので、議論としては、いろいろな角度から、これだけ世界に冠たる大学を作っていくにはという考え方に対して、それをどう位置づけるかとか、そのような議論というのは、当然、ここでもあり得るべきことだと思います。

○長我部委員 ありがとうございます。

重ねての御質問で失礼いたしました。よく理解しました。

○相澤座長 ありがとうございます。

○瀧澤委員 瀧澤です。

○相澤座長 瀧澤委員、どうぞ。

○瀧澤委員 ありがとうございます。

今日の議題2が非公開ということでしたので、申し上げにくいですが、かなり明確な見通しというか、計画がおありということがわかりました。ヒアリングや、その前のグルース学長のプレゼンから結構時間が経過してしまっていますので、ですから、Ⅲ.のところの確認・評価の概要の1、2、3、4、5というのをもう一度よく振り返って、当時考えていたことで本当にいいのかどうかというのを検討し直して、よりいい方向の書き込みができるといいなと思っております。

もちろん、予算の規模の具体的な金額なんていうことは、言及するかどうかは難しいと思いますけれども、例えば、PIの数がどれぐらいがいいのかということも議論していければいいのかなと思います。

以上です。

○相澤座長 ありがとうございます。

○宮浦委員 宮浦です。

○相澤座長 宮浦委員、どうぞ。

○宮浦委員 ありがとうございます。宮浦です。

今、話題になりました規模拡充の点は将来構想に直結いたしますので、非常に重要なこととは言うまでもないのですけれども、規模拡充の質的な部分を非常に議論する必要があると思っております。

分野を広げればいいというものでもないと思いますし、かといって、ある程度の分野の広がりも持ちつつ、強い分野、より深掘りするようなOISTの強み、特色、特徴分野をより強くするための拡充ということも、浅く広くよりも、むしろそちらのほうが重要なのではないかなという気がいたしますので、規模拡充といいますと、人の人数や面積にどうしても目が行きがちなのですが、質的にどういう拡充を目指すのかという議論が極めて重要だと思っております。

とはいえ、沖縄振興と世界に冠たる研究がどれぐらい両立するかという議論もあろうか

と思います。極論を言いますと、世界に冠たる研究をやっているPIの方にどれぐらい沖縄振興に関与してもらうべきか。あるいはそのエフォートも含めてしっかり考えていく必要があるのではないかと思います。

あるいは沖縄振興に関わっていただく方を、拡充の中で、現状もそうですけれども、全員が同じように関わっていただく必要はないのではないかと思いますし、世界的な研究をやっている方のポピュレーションは、ある程度沖縄振興も常に考えてくださいというものもちょっとどうかなど。ある程度役割分担といいますか、そういう形があつていいのではないかという気がいたします。そういう振興策や拡充策も、質的にどういう形で行うかという内容面の議論が重要だと思っております。

以上です。

○相澤座長 大変重要なことを指摘していただきました。

今、宮浦委員が意見を述べられたような内容こそ、この最終取りまとめに取り込まれていくべきだと思います。だから、どの規模まで拡大するのだというビジョンも当然あるけれども、質的に高めるにはどうしたらいいかというのがその前提としてあるわけです。

OISTの第三者の評価委員会もそういう議論をしています。ですから、世界のトップ水準を守っていくには、分野としてはこういう分野、それから、中に既にいるPIはこういうことを努力しなければとか、さらに、そうはいつてもクリティカル・マスが必要だねというようなことも出てきています。そのようなことがこの検討会でも議論されていくべきことではないかと思います。

それから、沖縄振興のことを考えると、ややもすれば、全PIがそこに携わらなければいけないというトーンになりがちなのですけれども、今、御指摘があつたように、大学は多様な学術の組織でありますから、いろいろなPIがいるわけです。そのようなことが最終取りまとめの各章のところではいろいろと、特にIV章の総括評価、V章の規模拡充の両方に関わることだと思いますが、そういうことを御意見を出していただいて、まとめていくようにすればと思います。

○宮浦委員 ありがとうございます。

1点だけ追加させてください。

先ほど日本人の学生あるいはPIを増やしてはどうかという御意見も一部あつたと思うのですが、それは非常に賛成なのですけれども、やりやすいやり方といたしましては、学生については、一部日本人枠といいますか、日本人も採っていただいていると思うのですが、PIについては、意外とフラットな競争の中で世界から採る。世界の中の一部が日本ということで、同じ土俵で採用したほうがいいのではないかと思います。

また、その中で研究員というカテゴリーがあると思うのですが、いわゆる任期付きのポスドクの方などは、日本人の研究者が2～3年単位でどんどん海外に出ておりますけれども、そういう感覚でOISTに日本人のポスドク等を積極的に採っていただくというのが一番効果的といいますか、やりやすいやり方かなと思っております。

以上です。

○相澤座長 ただいまの点もヒアリングにはそういう形で幾つか意見が出てまいりますが、先ほど来申しておりますように、ヒアリングはある立場から、ある角度から見たときの御意見です。ですから、それを一つの意見として伺う。

より重要なのは、検討会の委員の方々がどういう意見でそれを取り込んだり、あるいはそのところは少し距離を置いてとか、いろいろなことが出てくるかと思えます。ですから、そういうものをオープンに議論していけばよろしいかと思えます。

それでは、そのほかの御意見はいかがですか。

○岡崎委員 岡崎ですけれども、よろしいですか。

○相澤座長 岡崎委員、どうぞ。

○岡崎委員 私も沖縄の方々のヒアリングに全部参加させていただいて、思ったことなのですけれども、OISTは沖縄の方々に認知は間違いなくされていて、出ている成果も認められている。

ただ、沖縄の方々が、ある意味、異口同音におっしゃられたのは、接点の見だし方というか、OISTと自分たちのリソースとのつなげ方がよく分からないということがありましたので、最終取りまとめの中の今後の課題という部分では、OISTの持っておられるシーズの見せ方というか、つながった結果というのは今はまだ少ないと思えますので、例えば、こういうつなげ方がありますよとか、こういうことを期待していますよとか、そういう想定部分を発信していただくと、自治体としては、既存の企業さんばかりではなくて、OISTの要望があれば、そういう企業を沖縄の自治体に誘致してくるというムーブメントも期待しているところかなと思えます。

そういう連携を増やしていくと、連携の母数がある程度出てきて、母数が出てくると、例えば、公的資金につなげていくとか、あるいは民間から資金を得るとか、そういう広がりも出てくるのかなということを想定していて、そういう広がりが出てくると、日本の研究者とか企業研究者とか、世界の研究者につなげていくというつながりも出てくるのかなと。

ヒアリングを聞いた中で思うことは、そういう部分が最終取りまとめの中の今後の課題で言及されるといいのかなと思いました。

それと、もう一つ、財政支援の在り方で、御質問になるのか、どう決めていくのか、にわかには分かりませんが、評価軸というか、財政支援の中で、例えば、ここまで達成したらこういう支援がありますとか、そういうことが言及されるのかどうか、言及していくのかどうか、その辺をちょっと思いました。

最終的な取りまとめの中身については、こういうまとめ方でいいのではないかというのが私の意見でございます。

以上です。

○相澤座長 ありがとうございます。

岡崎さんの御意見は大変重要なことだと思います。これまでも検討会の中でも委員の方々から御提言がいろいろとありました。そのようなものを最後にまとめていくことに反映させていきたいと思います。

今、岡崎委員が指摘されたことで重要なことは、ヒアリングから留意点としてまとめられた中に反映されることをそのまま載せるのではなくて、その御意見に対しては、検討会としてそれをどう位置づけるかということが議論されて、その結果が最終取りまとめの中に入っていくというスキームが考えられると思います。

そのようなことで、今、御意見を出していただいたことは、第IV章の今後の課題のところにも位置づけられるでしょうし、大きなまとまりとなっていけば、提言というところに入り込んでいくということになるのではないかと思います。

財政支援の在り方についての御意見ですが、これは内容がどの程度のことを言うのか。この検討会では、基本的に個別の事象について、財政支援をどうするかという話はあまりふさわしくないのではないかと思います。

岡崎委員、よろしいでしょうか。

○岡崎委員 と申しますのは、グルース学長が先ほどプレゼンの中でおっしゃっておられた、総合化を目指していく方向なのか、あるいはこれが実現できなければ単一の方角になるのかというのは、今後の10年の中で極めて重要なテーマだと思いますので、その際にポイントとなるのが、財政支援の在り方がどうなるかによって方向性が決まってしまうので、ちょっと思った次第です。

○相澤座長 そうですね。今のような大きなくくりの問題は検討会での議論の対象になると思います。

○岡崎委員 ありがとうございます。

○山本委員 山本ですが、よろしいでしょうか。

○相澤座長 山本委員、どうぞ。

○山本委員 遅れてまいりまして、すみません。

今の先生方の御意見と関連するのですが、財政と規模に関連することなのですが、現実的に我々としては、サポートしていく方向で、財政が増える方向で議論したいと思うのですが、問題は、沖縄振興予算の枠組みの中で増やしていくのか、あるいは世界最高水準の科学技術ということをもう少し強化していくのか、あるいは沖縄における、あるいは日本における高等教育の振興という枠組みから、あえて予算を確保していくのかということも関連すると思うのです。

実際問題としては、沖縄振興予算の枠組みの中で拡大するのが難しければ、かなり理論武装が必要で、別の方式を取らざるを得ないということが一番気になっておりますので、4月以降の議論の際には、そこら辺を事務局で整理をしていただいて、資料をお出しいただくと大変ありがたいということでございます。

以上です。

○相澤座長 それは大変難しい問題で、かつ、かなり基本的な問題があるかと思いますが、検討会としては、先ほど来の議論が出てきておりますように、より水準の高い大学、世界トップレベルの大学として今後も発展していくためには、こういう形がふさわしいという議論が先行するかと思います。

その中に、先ほど来、もういろいろと議論が出てきておりますように、1つとしては、規模の問題も出てくるという位置づけですから、初めから予算の枠がこうだからという議論よりも、まずその姿をきちんと出していきながら、そして、その実現に向けてはという形で議論を展開していくことになるかと思います。

それをどこでどう議論していくかというのは、なかなか難しいところだと思いますが、その中で、今後の議論の進め方としては、これはもっと高いレベル、政府レベルでの検討をするような仕組みも必要であろうということは、中間取りまとめのところに出しておりますが、そういうことに触れることにもなるかと思います。

山本委員、そういうレベルでよろしいでしょうか。

○山本委員 ありがとうございます。

○相澤座長 そのほかの御意見はいかがでしょうか。

それでは、いろいろと御意見を頂きまして、ありがとうございました。ただいまの各委員からの御指摘は、本当にごもつともな御指摘でありました。

次回以降、最終取りまとめのプロセスに入ります。そこで中心的な議論でありますけれども、第IV章、第V章、第VI章をどう構成するかということで議事の進め方を整理させていただきます。第III章に反映させていくことはどういうことかということも、併せて進めていかなければならないと思います。

それでは、そのような御理解を共有させていただきましたので、ただいまの意見交換は終わりとさせていただきます。

早速、次回の検討会ですけれども、本日も様々な角度から御指摘がありました、OISTが将来展望をどう描いているのかということをお伺いしておく必要があるかと思えます。

そこで、次回にはOISTから御説明をしていただく機会を作りたいと思うのですが、本日の時間の長さ、時間としては20分程度で御説明いただくことにしたいと思います。ただ、そのときに、きちんとしたデータあるいは根拠、このようなものを御用意いただければと思います。

OISTの御意見も伺いたしたいと思います。これはどなたに伺ったらよろしいのか分かりませんが、次回、ただいまのようなことを行っていただくということによろしいでしょうか。

○ はい、結構です。

○相澤座長 ありがとうございました。

それでは、そういう予定とさせていただきます。

それでは、最終取りまとめに向けた進め方については、以上とさせていただきます。

最後に、その他事項でありますけれども、これは主に次回以降の日程であります。事務局から説明をお願いいたします。

○杉田次長 OIST室の杉田です。

最終取りまとめに向けて、4月から6月の間に3回の検討会を開催したいと考えてございます。

次回の検討会は4月から5月の予定です。後ほど事務的に日程調整を行いますので、お忙しいところを恐縮ですけれども、御協力のほどよろしくをお願いいたします。

今回は、先ほど相澤座長からもお話がありましたように、最終取りまとめに向けた、より細かい意見交換を考えております。

以上でございます。

○相澤座長 それでは、日程につきましては、以上のようにさせていただきます。

そこで、次回の検討会から意見交換を自由に行っていただくために、報道を一部非公開とさせていただきたいと思えます。いかがでしょうか。御了承いただけますでしょうか。

○ 分かりました。

○瀧澤委員 すみません。私の立場からしますと、全く非公開というわけではなく、各所、各所、ポイントでは、できる限り、なるべく透明性を確保していただきたいと思えます。

○相澤座長 透明性の確保については、後ほど議事要旨を公開いたします。今日の事業計画の取扱いとちょっと違う点がございまして。ですから、ヒアリングも非公開とさせていただいて、進めて、後から要旨をまとめて公開するという手続にいたしました。

今後の最終取りまとめの段階も、そのような形で、議事要旨については、後から必ず公開するという形にさせていただきたいと思えます。

○瀧澤委員 そうですね。できるだけ公開できるように、できる限り対処していただければと思えますが、具体的に公開にするとまずいということは、どういったことが懸念されているのでしょうか。

○相澤座長 ヒアリングと同じように、かなりデリケートな状況の御意見が出てまいりますので、その段階のものをあらかじめコントロールするというわけにもいきませんので、意見交換のその場は非公開とさせていただいて、その中の内容については公開という形で進めさせていただきたいと思えます。

○瀧澤委員 そうですね。これからまだ3回ありますので、その議事の概要も、なるべく個人情報を含まない形で差し支えない部分は公開していただくことと、タイミングですね、なるべく早く公開していただくように事務局のほうで努めていただければと思えます。

○相澤座長 そのようにさせていただきたいと思えます。

それでは、以上で本日の検討会を終了させていただきたいと思えます。

音声の状況、その他でトラブルもありましたけれども、皆様の御協力で深い議論ができたのではないかと思います。ありがとうございました。